



太良町立多良小学校 学校便り 第3号

ゆたたり

学校教育目標 「元気いっぱい 笑顔いっぱい とともに学び合う多良っ子の育成」

令和3年4月8日発行 文責 校長 副島 和久

春の交通安全県民運動



学校 HP もご覧ください

4月6日からスタートしました春の交通安全県民運動に合わせて、太良町でも交通指導員の方はもちろんですが、町役場の方、町議会議員さん、教育委員会の方、教育委員さんや民生委員さん、各学校のPTA、学校職員などが総出で、子どもたちの登校の様子を見守ってくださっています。

多良小学校の前の四又路でも、6日は永淵町長、7日は毎原副町長、そして、今朝は松尾教育長が立ち番をしていただいていた。ありがとうございます。

6日、7日は、あまり元気のいいあいさつができていなかった多良小学校の子どもたちでしたが、日毎に元気に大きな声で朝のあいさつができるようになってきました。学校の中だけでなく、ご家庭や地域においても、変わらず元気にあいさつができるとよいと思います。また、声をかけられてからではなく、自分たちから進んであいさつできるようになるとさらによいですね。皆様のご家庭ではいかがでしょうか。学校でも子どもたちにはあいさつのことについて指導をしています。ぜひ、ご家庭でもお声掛けください。



最初が肝心！家庭教育の基本

昨年度末の佐賀県PTA新聞に「市郡連」リーダー研修会」での家庭教育プロデューサーの酒井勇介氏による講演の概要が掲載されていました。お読みの方も多いと思いますが、とても大切なことであると思いましたので、ここで改めて、紹介したいと思います。



- 未成年者の自殺は増えていて年間 600 人以上。子どもの命を守るには、まず帰宅直後に顔を見てほしい。目と表情を見れば何かあったのかが分かる。
- 言葉を交わしながら食事し、時間を意識させつつ一緒に遊んでもらいたい。
- 子どものノートを週に一度でいいから見てほしい。学校での様子が分かる。
- 学力は遺伝しない。頭のいい子に育てるには家庭での教育環境と学習習慣が必要だ。
- 家庭で自由に使える8時間をどう過ごすかで、学力差が出てくる。
- 「勉強しなさい」はどんどん言っているが、言い方が大事。感情に任せて怒鳴らず、あいさつ感覚でやさしく声掛けしてほしい。全く勉強しない子は「〇分だけ机に向かってみよう」から始める。



○ 成績の上がない子の特徴

- ① 学習時の姿勢が悪い。
- ② 時間を守らない。
- ③ どこでもゲーム・携帯電話をする。
- ④ あいさつができない。



○ まず何でもいいからほめることがポイント。一つほめてから、一つ注意する。

○ リビングにランドセルや教科書、学用品を置く場所を設け、帰宅後そこにおいてから勉強するのをルーティン化する。

○ ご飯を食べる時は授業のことを話題にする。

○ 寝る前もルーティンで、歯磨き3分、英語のリスニング2分、読書 10 分を続ける。

○ 朝は新聞を3分間めくる。社会や政治、世界の情勢を知り、善悪の判断力も身に付く。

○ 家庭学習にクイズ感覚、遊び感覚を取り入れるのがコツ。

○ 生活の中に「なぜ」「どうして」の環境をつくる。

受験でも基本は言語能力。どの教科も読解力が求められ、日常の会話の中で気になったことを調べる習慣をつくるだけで大きく違う。

○ 紙媒体で読書をする、非認知能力(意欲や協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性などの能力)が高くなるというデータがあるとのこと。



家庭環境はそれぞれに異なり、全てを一律に取り組むことは難しいかもしれませんが、年度初めのこの時期にご家庭の教育環境や保護者の皆様のお子さんとの関わり方を点検してみて、できるところから取り組まれてみてはいかがでしょうか。

多良小学校からのお知らせとお願い

多良小学校でも、保護者の皆様に取り組んでいただきたいことを焦点化し、ご負担を減らすとともに、本当に大切なことには是非取り組んでいただけるようにしたいと考えています。ご理解・ご協力をお願いいたします。(● 見直したこと □ ぜひお願いしたいこと ■ 今後、検討すること)

- 家勉週間の取組は中止し、家勉カードも「無し」とします。
- ノーテレビ・ノーゲームデーはPTAの取組として継続しますが、毎月のカード記入はしません。
- 親子読書についてはこれまでのように行いますが、カードの記入は簡略化します。



□ 「多良っ子カード」は毎日、必ず見ていただき、確実に保護者のサインをお願いします。

□ 週末には、子どもさんが図書室で借りた本を持ち帰らせますので、どのような本を読まれているかを見ていただくとともに、家庭での読書(「家読」と書いて「うちどく」と言います。)につなげてほしいと思います。

■ 学童保育「なかよし」などで学校の宿題を済ませてしまっているお子さんの中で、家庭での学習習慣が身につかないままに学年が上がっていく子どもがいるのではないかと大変危惧しています。中・高学年から中学校にかけて、家庭学習の習慣が身についていないことは、学習面でかなり厳しい状態に陥ってしまうことが予想されることから、このことについては、今後、学校の方でも手立てを考えていきたいと思っています。

保護者の皆様は、お子さんがご家庭で学習している姿をご覧になられていますか。